ヤスデ類
（ヤケヤスデ）

ヤケヤスデ成虫　発生時期											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ヤケヤスデ　約20mm
全国各地で普通に見られる

日本には約200種が記録されています。

土壌中に多く生息し，多数の脚をもつので多足類ともよばれることがあります。

ヤケヤスデは，畑や庭など人家付近で最も普通に見られるヤスデの一種です。また，秋に列車の通行妨害を起こすキシャヤスデ（オビババヤスデ）という種もあります。

今年度は6月までに，ヤスデ類の大量発生による相談が多く寄せられています。ヤケヤスデを中心に，生態から駆除・予防方法について，紹介しました。

生態・習性

ヤケヤスデの成虫は，18～20㎜の棒状の体型で，体色は淡褐色から黒褐色まで変化に富んでいます。乾燥を嫌い，湿った落葉層や倒木の下など湿って腐食質の多い場所で生活しています。また，土壌生態系の一員として，体積した落葉や枯葉などの有機物を，良質の土に還元している役割は大きいといわれています。

9月頃に生まれた卵は10月下旬に孵化，幼虫で越冬して，翌年の6～7月に成虫になります。ヤスデ類は，繁殖時期あるいは越冬前に集団を形成することがあります。たまたま，それが，人目に触れるような場所であると問題となります。また，ヤスデ類は，一般に湿度の高い夜間または光の弱い時，曇りに日などに活発に行動するとされています。

被害

大雨の直後や梅雨明けの季節などに，多数のヤスデが人家に侵入し，天井や壁を這い登って不快感を与えます。過度の湿気や水分の刺激による逃避行動と考えられています。個体数の多さだけでなく，

独特の臭気と動きが不快感の原因になっていますが，ヒトを咬んだり刺したりすることはなく，分泌物による害も知られていません。

対策・予防

屋内に侵入したヤスデには，市販の殺虫剤が有効です。侵入数が少なければ，ホウキとチリトリを使っての物理的な除去で充分でしょう。

発生源対策は一般に困難であるため，侵入防止が主な対策となります。宅地周辺からヤスデの好む湿った落葉や枯草などを帯状に除去し，地肌が見えるようにした後，ダイアジノンやフェンチオンなどの粒剤を 30 cm幅程度に散布します。庭などに発生した場合には，環境整備と併せて，建物の基礎まわりに薬剤を散布しますが，薬剤使用の際には，風などによる薬剤の飛散，小児やペットなどへの影響にも留意する必要があります。

また，人家の周辺に堆積した落葉や倒木などを除去し，ヤスデ類の隠れ場所をなくすことや，雑草を刈り，乾燥した環境にすることも大切でしょう。

ヤケヤスデ発生源（休耕田）　コンクリート壁を越えて住宅内に侵入した

住宅の基礎部分に見られた
ヤケヤスデの死骸

更に詳しい情報を知りたい場合は，以下の図書を参考にしてください。

1） 服部畦作，森谷清樹　共著　：　不快害虫とその駆除　(財)日本環境衛生センター(1987)

2） 松崎沙和子，武衛和雄　著　：　都市害虫百科　(株)朝倉書店(1993)

＜写真＞

山梨県福祉保健部衛生薬務課　衛生公害研究所　：　日常生活と身の回りのむしたち(2001)